

令和元年8月8日  
JA 営農支援課

## 「斑点米カメムシ類多発と高温障害」注意

本年は県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の発生数が「多い」と発表されておりますが、8月6日にJA 営農支援課でもA地区～H地区を各1点ずつすくい取り調査したところ、ほとんどの地区で平年の2倍～4倍程度多く確認されました。発生の内訳では「アカヒゲホソミドリカスミカメ」が全体の77%、「アカスジカスミカメ」が同22%、「オオトゲシラホシカメムシ」が同1%と、「アカヒゲホソミドリカスミカメ」が多い状況となっております。

今後、出穂～乳熟期を迎えるに当り警戒が必要となりますので、つぎにより対策及び防除に努めてください。さらに詳しい情報を知りたい方は営農支援課までお問い合わせください。

また、出穂前より高温日が続いておりますが、この後も週間予報等では高温日が多い予想となっております。白未熟粒やクサビ米は出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると発生が多くなるとされており、圃場の乾燥により助長されることから、この期間の天候を注視し高温日が続く場合は、間断灌水等による乾燥対策に努めてください。

### 斑点米カメムシ対策

- ① 圃場内にヒエ、ホタルイが残草している場合は早急に抜き取る。
- ② **出穂10日後頃**に1回目の薬剤（スタークル、キラップ等）を散布。  
「たつこもち」「ちほみのり」散布適期：8月10日頃  
「あきたこまち」散布適期：8月13日頃  
「きぬのはだ」「ときめきもち」等晩生品種：8月18日頃が目安
- ③ 上記薬剤散布後、速やかに草刈り（薬効があるうちに圃場内へ追込む）。
- ④ 上記薬剤散布から2週間を目途に2回目の薬剤（スタークル、キラップ等）を散布。

### 〈 防除薬剤 〉

- ・スタークル…[粉剤DL] 3kg/10a、[液剤10] 1,000倍で60L/10a  
[液剤10] 8倍で800ml/10a(無人ヘリ)
- ・キラップ…[粉剤DL] 3kg/10a、[フロアブル] 2,000倍で60L/10a  
[フロアブル] 16倍で800ml/10a(無人ヘリ)